

平成 30 年 7 月 6 日

北海道新聞掲載

## 美深の工房には常設スペース 天塩川沿い 地名を解説



【美深】旧恩根内小校舎を活用した木工品制作工房兼カフェ「アートビレッジ恩根内」に今月、幕末に天

塩川流域を探索した松浦武四郎（1818～88年）の足跡を紹介する常設の展示スペースがオープンした。

松浦武四郎の足跡を紹介する資料やパネルが並ぶ展示スペース

「松浦武四郎・天塩川ミュージアム」と名付け、展示面積は60平方メートル。6度にわたる武四郎の蝦夷地探査や天塩川沿いにある地名の由来を記したパネルなど資料約50点を展示する。現代語訳された武四郎の紀行文

「天塩口誌」、生涯を描いた小説「がいなもん 松浦武四郎一代」（河治和香さん著）などの資料や書籍も手に取って読める。

武四郎と交流の深いアイヌ民族の歴史や文化などを紹介するコーナーも設置。資料は町や上川総合振興局、旭川開建名寄河川事務所、名寄市の北国博物館な

どから提供を受けた。

今年には武四郎の生誕200年、北海道命名150年の節目でもあり、施設を運営する工藤貢さん（68）は「改めて武四郎を学ぶきっかけにしてほしい」と話している。

入場無料。開館は10月末までの月、金、土、日の午前10時～午後4時30分。問い合わせはアートビレッジ恩根内 ☎01656・9・6005へ。

（鈴木宇星）